

会議議事録

会議名	令和7年度 第2回 教育課程編成委員会	
開催日時	令和8年2月12日（木曜日）10：30～12：05	
場 所	広島歯科技工士専門学校棟 3階 図書室	
出席者	1) 外部委員 一般社団法人広島県歯科技工士会 会長 白井 政博 株式会社 愛歯 中四国地区 事業部長 吉富 嘉朗 2) 学内委員 学校長 赤川 安正 教務主任 木村 卓也	
欠席者	教務副主任 荒谷 康德	

【議事進行状況及び討議内容】

1. 10時30分木村卓也教務主任が開会を告げた。
2. 当委員の出席を確認した。
3. 赤川安正校長の挨拶があった。
4. 議長の選出は当委員会実施規程により、校長赤川安正が議長となり協議に入った。
5. 報告事項

事務局より、次のように報告があった。

- 1) 学校教育法の改正（令和8年4月1日より施行）について

〈主な改正事項〉

- ・専修学校入学資格が大学の入学資格と同じになる。
- ・単位制：62単位以上を実施（31単位を修業年限で乗じる）。
- ・特定専門課程となる（大学へ編入可能）。
- ・専門士の称号の授与
- ・大学と同等の項目での自己点検評価を義務付けるとともに、外部の識見を有する者による評価を受ける努力義務（第三者評価の実施）

- 2) 在校生の状況について

（1年生）在籍者数23名（内2名が休学中／留年3名決定）

（2年生）在籍者数14名（内1名が留年決定）

- 3) 卒業予定者の状況について

①就職・進学状況 11名（内定済み）、2名（研修科などに合格済み）

（歯科技工所：10名 歯科医院：1名 研修科など：2名）

②卒業試験（学説・実技終了）

*卒業認定会議 3月10日（火）（予定）

- ③国家試験模擬試験 ・外部模試（学説）3回受験（9/4, 11/28, 1/6）
・学内模試（学説・実技）本番を想定して実施（2/3、2/12）

- ④国家試験：2月15日（日）大阪会場
（新大阪歯科技工士専門学校または新大阪歯科衛生士専門学校）
・合格発表：3月26日 14：00

4) 第53回卒業式の日程について

*令和8年3月17日 10：00～ 山陽女子短期大学講堂

5) 令和8年度入学予定者の状況（1月27日現在）（入学定員30名）について

*20名（現役15名 非現役5名）（男性4名 女性16名）

*今後の入学試験日程

- ・自己推薦個別入試 2月17日
- ・第5回入学試験 2月23日 祝日
- ・第6回入学試験 2月20日 祝日

6. 協議事項

議題1) 卒業生の就業先アンケート結果について

事務局より、昨年3月の卒業生の就業先アンケート集計結果について
質疑応答があった（詳細は別紙の通り）。

議題2) 令和7年度授業カリキュラムの実施状況について

事務局より、令和7年度授業カリキュラムの状況について、質疑応答があった。

〈1学年〉

1) 通常授業の実施状況

2) 特別授業等の実施状況

- ・9月3日 「インプラント」デンテックインターナショナル 山下恒彦氏
- ・11月21日「審美歯科」日本歯科審美学会 末瀬一彦先生
- ・11月27日、28日、12月24日 「歯科技工所見学実習」
- ・11月29日「海外での歯科技工」 多和利雄人氏
- ・1月27日 「AIと歯科医療の展望」 広島大学 峯裕一先生

〈2 学年〉

1) 通常授業の実施状況

2) 特別授業

【実施済】

- ・5月21日「顎顔面補綴」(株)愛和義肢製作所 森下裕司氏
- ・7月25日～8月8日「インターンシップおよび歯科技工所見学」
- ・9月1日～3日「和田精密歯研(株)大阪本社見学」(研修旅行)

【実施予定】

- ・2月19日「セラマージュ」(株)松風 沖本祐真氏
- ・2月20日「デジタルでのパーシャルデンチャーの設計」(株)GC 真辺浩典氏
- ・2月25日「サイレンサー」Matsuda Oral Appliance 松田信介氏

〈1、2 学年合同〉

【実施済】

- ・4月26日 歯科医院見学
- ・7月6日 中国デンタルショー見学

【実施予定】

- ・2月27日 「アメリカでの歯科医療・歯科技工」
前ボストン大学教授 平山洋先生
「あなたのキャリアデザイン」 校長 赤川安正

〈企業連携授業〉

- ・9月16日「全部床人工歯排列～歯肉形成 ろう型採得 CAD デザイン」
(株)愛歯：山本勝裕氏、石丸育恵氏、藤原広之氏、平川龍之介氏、
高島竜治氏、加藤日菜氏、木谷愛実氏、深田堅人氏
- ・10月22日「上顎右側第一大臼歯の石膏彫刻」
和田精密歯研(株)：石井卓氏、有重敬太氏、赤石幸志郎氏
- ・2月18日(予定)「デジタル技工に関する関係法規、歯科用CADソフトの操作法、
歯型彫刻」
一般社団法人広島県歯科技工士会：白井政博氏、岩畔将吾氏、川端晴也氏、
松永考司氏、東間花菜子氏、平元ゆかり氏

議題3) 令和8年度授業カリキュラム (授業計画) について

事務局より、令和8年度授業カリキュラムの状況について、質疑応答があった。

- 1) 三つのポリシーの策定
- 2) 歯科技工の基礎知識と技術の向上
- 3) 学習意欲 (モチベーション) の向上
- 4) 臨床的模型を使用しての即戦力となる人材の育成
- 5) 就職に向け社会人としての心構え等の指導

〈1 学年〉

- 1) 前年度のカリキュラムの継続
 - ・ 入学前教育 (家庭学習として課題を行う)
 - ・ 義歯の製作実習を先行したのち、講義を行う形式とする。
 - ・ 実習時間と実習課題の削減 (フォロー時間と課題の振り返り)
- 2) 海外で活躍している歯科医師や歯科技工士や業界に精通した方を講師に、「歯科界の現状および将来展望」をテーマにする講演の実施
- 3) 歯科医院見学の実施
- 4) 歯科技工所見学の実施

〈2 学年〉

- 1) 令和8年度 (下記) のCAD/CAM実習課題の取り組みを継続
 - ①オーダー: 氏名、部位、修復物の選択、材料の選択、色調
 - ②スキャン: 石膏模型のスキャン
 - ③ダブルスキャン: 4のWax up からスキャンパウダーを使用したのスキャン
 - ④ミラーリング: 1の隣在歯をコピーして反対側の設計
- 2) その他
 - ①2年生で実施している特別授業を1年生で実施することを検討
 - ②企業連携授業・特別授業の継続 (デジタルでの有床義歯の製作)

議題4) 1) ~ 3) の意見交換

- 1: 各説明についての質疑応答および改善点等について重ねて討議した。
- 2: 学校からの質問
 - ① 臨床に触れる機会について
 - ② 学生の状況にあった指導方法について

③ 企業連携授業について

3：委員会からの要望

議題5) その他

1) 次期教育課程編成委員について

白井政博委員と吉富喜朗委員より、次期の教育課程編成委員の承諾を得た。

任期：令和8年4月1日～令和10年3月31日

2) 来年度の会議日程について

次期の教育課程編成委員会議の日程について承認を得た。

第1回 令和8年8月20日 10：30～12：00

第2回 令和9年2月18日 10：30～12：00

以上で全ての議題を終了し、12時05分に進行の木村卓也委員が閉会を告げた。

令和7年度 第2回教育課程編成委員会 報告と協議（質疑応答を含む）

報告事項 1) 学校教育法改正について

- ・学校教育法改正があり、令和8年4月1日より施行される。
- ・専修学校の質の保証・向上が目的である。

「主な改正事項」

- ・専修学校の入学資格が大学の入学資格と同じになる。
- ・全専門学校が単位制になり、1年間31単位実施×就業年限により、専修学校として認められる。
- ・特定専門課程になり、修了・卒業した者は大学へ編入が可能となる。
- ・専門士の称号は文部科学省の大臣告示によって授与されていたが、法律により専門士の称号が授与される。

大学と同等の項目で学校を点検・評価し、第三者評価機関で認定してもらうか、全く学校と関わりのない人で構成された組織で認定してもらうかになる。令和8年の4月1日から5年以内にこの第三者評価を受けなければならぬ。

報告事項 2) 在校生の状況について

- ・1年生は現在23名が在籍している。うち2名が休学しており、留年の決定が3名いる。
- ・2年生は現在14名が在籍している。うち1名の留年が決定しており、残り13名が卒業予定。

報告事項 3) 卒業予定者の状況について

- ・内定が11名、2名が研修科などに合格しており、合計13名の進路が決定している。
- ・内定の内訳は歯科技工所10名、歯科医院1名である。研修科などでは大阪セラミックトレーニングセンター1名、鶴見大学病院1名である。
- ・1月末日に卒業試験が終わる。3月9日の認定会議で卒業の可否が決まる予定。

「国家試験の模擬試験の実施状況」

- ・外部の模擬試験を年3回受験、学内の模擬試験を2回実施した。
- ・国家試験は2月15日（日）大阪会場（新大阪歯科技工士専門学校）で受験予定。
- ・卒業式は3月17日（火）10時から本校の講堂で実施予定。
- ・国家試験合格発表は3月26日（木）の予定。

報告事項 4) 卒業式について

- ・卒業式は令和8年3月17日（火）10時から山陽女子短期大学の講堂で執り行う予定。

報告事項 5) 来年度の入学予定者の状況について

・現在 20 名が合格している（現役：15 名、非現役：5 名、男性：4 名、女性：16 名）。

・今後の入学試験の予定は 2 月 17 日に個別の入学試験（1 名が受験予定）、2 月 23 日と 3 月 20 日にそれぞれ実施予定。

（吉富委員）

・教育法の改定で、大学へ編入というのは何年に編入できるのか。

（木村委員）

・受け入れる大学が本校の単位をどれだけ認めるかによる。2 年次以降で編入できれば理想的である。

（赤川議長）

・本学での 2 年間で修得した単位をどのように認められるか、それは大学によって違いがある。どれだけ認められるかによって編入の学年が異なる。大阪歯科大学で客員教授をしていたとき、学科長と一緒に編入学のシステムを作った。例えば、3 年次編入になると、学費の問題が出る。4 年間トータルの授業料は編入のほうが安くなるので 1 年次から入学している学生が不満に思う可能性がある。そこで、2 年次に編入、専門学校 2 年プラス大学 3 年でトータル 5 年とした。一方でこの制度では編入生は歯科技工士免許を持っているので、「スチューデントアシスタント」というインストラクターのアシスタントをして少し給料をもらう。大学生だが、ライセンスを持っているので、実習課題を削減するという編入学制度である。

（吉富委員）

・卒業予定者で、11 名の就職先方は全員県内ですか。 県外もいるのか。

（木村委員）

・県外は東京 1 名と山口 2 名で、広島県内である。

（赤川議長）

・来年の話をする、宇部から 2 名が入学する。というのは、下関の歯科技工士学校が募集停止なので、山口県からでも来てくれる。だから、来年以降は山口県の高校訪問にも力を入れる予定である。

（吉富委員）

山口県も訪問されているのか。

（木村委員）

山口県の最も西側では、宇部まで行っている。

（吉富委員）

東は、

（木村委員）

東は福山である。

（赤川議長）

福山はどちらかというと、岡山の方に向く傾向がある。なぜなら、広島に来るより岡山に行く方が近いからである。

協議事項 1)

卒業生の就業先アンケート結果について

(木村委員)

令和7年3月に卒業した5名の(男性3名、女性2名)が就職した先(一軒の歯科技工所)でアンケートの回答である。

Q: スタッフとコミュニケーションが取ることができていますか。

A: とても取れているが2、取れているが3。

Q: 入社後基本的な技術は身につけていましたか。

A: とてもついていたが4、ついていたが1。

Q: 入社直後と比べて技術やスピードは上達しましたか。

A: とても上達したが5

Q: その他入社当初に担当した仕事内容は。

A: ①パーシャルデンチャーのメタルフレーム

②保険デンチャーの研磨

③クラウンの模型作り

④CAD/CAM冠の仕上げ作業

⑤模型作り

Q: 学校への望みは

A: 学生の時期から臨床に触れる機会があるといいのではないかな。

Q: 貴社が求める人材・歯科技工士についての意見をお聞かせください。

A: 資格を持っていれば大丈夫です。

アンケート結果は以上です。

(白井委員)

・去年、授業でこの5名を見たけど、みんな仲良さそうで、良い子ばかりの感じであった。

(赤川議長)

Q: 保険でのパーシャルのメタルフレームはどんな業務なのか。

(吉富委員)

A: クラスプやバーである。作業用模型から複模型を起こして、ワックスアップをして、型ごと埋没、キャストして研磨・適合までを行うことである。

(赤川議長)

Q: もう一点、基本的な技術というのは、どういうところまで、どのくらいのことをイメージされているのか。

(吉富委員)

A: 指示書を読み取れる歯科用語や簡単な知識である。そこにプラスして、歯の形を習得しているかである。上手いかどうかはスキルアップの部分になってくるので問題ない。こちらが説明する歯科用語を理解でき、実際に活かせるかどうかである。学校での授業の内容をいかに身に付けているかということが大切だと思われる。

議題 2) 令和7年度授業のカリキュラムの実施状況について

(木村委員)

- ・1年生は通常の授業を実施している。先日、後期試験を終了した。
- ・特別授業は11月27日、28日と12月24日に歯科技工所の見学をした。学生は各1軒を見学している。
- ・9月3日デンテックインターナショナル山下氏による「インプラント・アメリカでの歯科技工」について授業を受けた。
- ・11月9日に卒業生を講師に招いて、「海外での歯科技工」について、オンラインで受講した。
- ・11月21日に日本歯科審美学会の末瀬先生を講師に招いて、「審美」について講義を受けた。
- ・1月27日に広島大学の峯先生を講師に招いて、「AIと歯科医療の展望」についての講義を受けた。
- ・2年生は通常の授業が終了、現在は国家試験の対策を行っている。
- ・特別授業は「顎顔面補綴」(7月)、インターンシップ・歯科技工所の見学(8月)、
- ・研修旅行で和田精密歯研(株)の大阪本社を見学した(9月)。

今後の予定は以下のとおりである。

- ・「デジタルでのパーシャルデンチャーの設計」(株GC:真辺、2/20)。
- ・「セラマージュ」(株松風:沖本:講義とガム形成の実習、2/19)。
- ・「サイレンサー」(松田オーラルアプライアンス:サイレンサー、2/25)。
- ・1、2年の合同の授業
- ・歯科医院の見学(4/26)
- ・中国デンタルショーの見学(7/7)
- ・「アメリカでの歯科医療、歯科技工」前ボストン大学の教授:平山洋先生の講演を受講する(2/27)。

企業連携事業

- ・「人工歯排列とろう型採得とCADのデザイン」(株愛歯、9/16)。
- ・「石膏彫刻」(和田精密歯研(株)、10/22)。
- ・「デジタル技工に関する関係法規と歯科医療CADソフトの操作と歯型彫刻」((一社)広島県歯科技工士会、2/18予定)。

議題 3) 令和8年度の授業カリキュラムの実施計画について

(木村委員)

- 1) 3つのポリシーを策定
 - 2) 歯科技工の基礎知識と技術の向上
 - 3) 学習意欲、モチベーションの向上
 - 4) 臨床模型を使用しての即戦力人材の育成
 - 5) 就職に向けて社会人としての心構えの指導
- を基に来年度、事業計画を立てた。

まず、ディプロマポリシー（卒業認定に関する方針）を策定、次いでそれに必要となるカリキュラムポリシー（教育課程編成実施の方針）を策定、最後にそれに必要となるアドミッションポリシー（入学の受け入れ方針）の策定を行っている。これらは法改正によって義務化された第三者評価を受けるにあたって、必要になる。

1年生

- ・入学前教育を実施する。
- ・義歯の製作については実習を先行してから講義を行う。
- ・実習時間と課題を削減して、フォローする時間と課題の振り返りの時間を取る計画とする。

2年生

- ・デジタル歯科技工はCADの課題をオーダー、スキャン、ワックスアップからのスキャンパウダーを使用してのスキャンをする。またミラーリングなどの練習を行う。
 - ・その他、2年次で実施している特別授業の数が多く、時間を圧迫しているため、いずれかを1年次で実施したい。
- 企業連携授業と特別授業は今年度と同様に実施を計画している。追加で、デジタルでの有床義歯の製作を実施したい。

(吉富委員)

Q：歯科技工所の見学は、求人票を出されている歯科技工所から選んでいく形なのか。偏りはあるか。

(木村委員)

A：5月の後半に合同会社説明会を実施し、そこで興味を持った企業を見学することから始めている。

(吉富委員)

Q：弊社に来ていただいた学生さんには「一軒でも多くの歯科技工所を見学した方がいい。実際に行かないとわからないから」と必ず伝える。そこで働く人と触れ合った方がいいと考える。

(白井委員)

Q：デジタル歯科技工についてですが、AIのデザインも始まっている。そのときに大事なのは、「部位を間違えない」など基本的なことです。地味でたいへんな作業ですが、この作業にも向き不向きがあり、確実にできる人材が必要である。

(赤川議長)

Q: そうすると、歯科技工士は何をすることになるか。名前を間違えないという確認だけで、学校の教育もそういう教育が必要になるか。保険診療でのAIが進んだ時に、歯科技工士が何をすることが、大きなテーマとなる。

(白井委員)

A: 問題なのは、iOS データでオーダーが来た場合模型がないので、製作したものの歯科医院や患者が分からない。

(赤川議長)

Q: やっぱり模型あった方が良いということですね。良い対策はあるか。

(白井委員)

A: デザインしたビューワーがあるので、見比べて選別している。

(赤川議長)

Q: 分からなくて、間違いがあるのではないか。

(白井委員)

A: 数はまだそう多くないので、目視で比較して間違いないように納品している。

(赤川議長)

A: だから、それを見る目や画面と物を合わせる必要がある。模型があった方が安心である。逆行するようだけど、納品のための模型を3Dプリントで製作した方がいいかもしれない。

(吉富委員)

A: 今はまだ数が少ないので対応ができていますが、増えると大問題となる。

(赤川議長)

減ることはないと思われ、増える一方だから問題となる。

オーダー作成について

(白井委員)

・紙媒体の歯科医院からの指示を入力している。パソコンに入力する患者名を間違ったら検索できない。

歯科技工の技術が伸びない子がいましたが、こういう業務にすごく向いていて、間違えずに確実にこなす人材も必要となる。

(木村委員)

・今までは模型には患者名と歯科医院名があって、作ったものを模型にはめて仕分をしていました。それは歯科技工士でなくてもいい業務ですけど、作ったものとデジタル画像を見比べるなら歯科技工士でないと難しいです。意外な業務が増えて時間を取られているということ。

(赤川議長)

・歯科技工士は業務で漢字を書くことがないので、1年生の試験で記述を省こうと思っていましたが、今の話は真逆のことで考える必要がある。

(白井委員)

・書けなくてもいいが、読めなければならない。そこがすごく大事になってきている。

(赤川議長)

・課題でパニックになる学生がいる。歯科技工ではなくて、画面と実物と比較するのは当然勉強しているので、生きる道はありますね。

(白井委員)

・やることはいっぱいある。最低限、部位とか読み方とか歯種を覚えていたら、業務の幅が広がることになる。

(赤川議長)

・歯科技工士は作るだけではなくて、その関連の周囲の仕事がいっぱいあると知った。デジタルが進んだからこそ生まれた業務である。歯科技工士になったからには補綴装置などを作って喜びを感じてもらいたいが、基本はそこですね。難しさを感じている学生には今日のお話はとても良いヒントになる。

議題 4) 意見交換

(赤川議長)

学校の方から質問をお願いします。

(木村委員)

Q: 臨床に触れる機会ですが、できる限り現場の状況を再現して実習をしています。ただ、現場の雰囲気や責任感などのように実習で再現できるか悩んでいる。その方がその課題に対するモチベーションが変わってくると思う。

今年から指示書を基に課題に取り組んでいるが、意識する学生には効果を感じている。そうでない学生は変わらない。臨床での責任を感じさせる方法があったらご意見をいただきたい。

学生の状況に合った指導方法ということで アンケートでも基本的なことをできてほしいということですが、個人差がある。各学生が課題をするにあたって、個別で指導できる方法があればお聞きしたい。

もう一つは企業連携事業か特別授業で「デジタルによる義歯」を入れることができたらと構想しているが、それに関してのご意見もいただきたい。

(白井委員)

A: 今は範囲が広く、昔と比べてやることが多くなっているので全部できる必要はない。でも一応一通りは経験させてほしい。

それでも徹底して教育をしておいてほしいのは、歯式を絶対に間違えないようにするとか、漢字が読めることです。今は山登っている状況であり、休憩の時に、山の下を見たらだいぶ登ってきたと実感するはずで、それを見せてあげればいい。

(木村委員)

・3D プリンティングデンチャーもこれから増えるか。教育が必要と考える。

(白井委員)

・今の保険に入っている分だったら普及しないと思われる。ろう堤まではドクターがアナログでやらなければならないが、そこからが歯科技工士の仕事になるという制度と思われる。

(赤川議長)

・アナログは引き続き必要ということですね。

(吉富委員)

・責任感、緊張感など、言われた内容はなかなか難しいことである。

(白井委員)

・歯科医院の見学を予定しているが、この時に歯科技工物をセットする場面を見ることができたらいい。

(赤川議長)

・日程が決まっているので、その日に装着するものがあつたらラッキーだし、装着がないケースもあり得ます。

装着の時を選んでいくのは、学校の授業時間的に難しかったりするので、装着の場面があれば最高にいい。

(吉富委員)

・仕事でも臨床の現場に立ち合うことが大切です。自分が作った歯科技工物を口腔内にセットするのを目にすると、意識が変わるきっかけになります。ですから1年目からでも立ち合わせるようにしています。やはりそこが重要
です。患者様の反応が人伝えとか活字だと温度感が伝わらない。現場で直接に見聞きするのが重要と考える。
その経験で仕事に対する姿勢が変わる人もいる。

(赤川議長)

・まったく同感です。

議題 5) 教育課程編成委員の任期について

(木村委員)

令和8年3月31日で現委員の任期が終了する。次期の任期が令和8年4月1日から令和10年3月31日までになる。お二人にはぜひ引き続き就任していただきたいのが学校側の意向である。

(白井委員) (吉富委員)

はい。了解しました。

(赤川議長)

ありがとうございます。よろしくお願いいたします。来年度の予定を、報告してください。

(木村委員)

第1回 令和8年8月21日(木) 10:30~12:00

第2回 令和9年2月12日(木) 10:30~12:00の予定です。大丈夫でしょうか。

(白井委員) (吉富委員)

はい。大丈夫です。

(赤川議長) (木村委員)

ありがとうございます。活発なご意見いただき、どうもありがとうございました。

(木村委員)

以上をもって、令和7年度第2回教育課程編成委員会を終了します。皆さまお忙しい中、ありがとうございました。